第六部　インマヌエルの書　②

「インマヌエル」とは、メシア（キリスト）を指す呼称のひとつ。
イザヤ書の中のメシア預言で、メシアを「インマヌエル」と呼んで預言している一連の部分を、神学上、「インマヌエルの書」という。

□第六部のアウトライン　C)、D)、E）はイザヤ親子の名と関連する預言（8：18）

A)　インマヌエルのしるし（処女から生まれる）　7：1～25
B)　インマヌエルについての４つの預言　8：1～9：7
C)　神の伸ばされた御手　9： 8～10：4
（神がアッシリアを用いて北イスラエルを裁く）
D)　アッシリアに対する裁き　10：5～34
（レムナントについての預言を含む）
E)　インマヌエルによる統治　11：1～12：6

次男マヘル・シャラル・ハシュ・バズ
【分捕り物はすばやく、獲物はさっと】
長男シェアル・ヤシュブ
【残りの者が帰って来る】
父親イザヤ　【主は救い】

注意：この預言の中で、北イスラエルは、「エフライム」とも呼ばれる。
北イスラエル・・・エフライム族はじめ十部族、その首都はサマリア。王は有力者交替
南ユダ・・・・・・ユダ族とベニヤミン族、その首都はエルサレム。王はダビデの家系

□B）インマヌエルについての４つの預言　のアウトライン（イザヤ 8：1～9：7）

1.　アッシリアが北王国イスラエルとアラムを攻撃するであろう（8：1～4）
2.　そのあと、南王国ユダも攻撃されるであろう（8：5～8）
3.　インマヌエルについての預言①「しかし、インマヌエルのゆえに南王国ユダのダビデの家は守られる」（8：9～10）
4.　インマヌエルについての預言②「インマヌエルは、つまずきの石、妨げの岩となる」（8：11～15）
5.　イザヤ親子の名が示す神の働き・・・その焦点は、「イスラエルの残れる者【レムナント】（少数の真の信仰者たち）」に（8：16～18）
6.　律法に従い、預言者の証しに聴け（8：19～22）
7.　インマヌエルについての預言③　ガリラヤ地方は将来、栄光を受ける（9：1～3）
8.　インマヌエルについての預言④　ガリラヤ地方が栄光を受ける理由（9：4～7a）
9.　結びのことば　「万軍の主の熱心がこれを成し遂げる」（9：7b）

B)　インマヌエルについての 4 つの預言　8：1～9：7

1.　アッシリアが北王国イスラエルとアラムを攻撃するであろう（8：1～4）

1 節　**主は私に言われた。「一つの大きな板を取り、その上に普通の文字で、『マヘル・シャラル・ハシュ・バズのため』と書け。**

- 普通の文字で・・・誰もが読みやすい書体で

2 節　**そうすれば、わたしは祭司ウリヤとベレクヤの子ゼカリヤに、わたしの確かな証人として証言させる。」**
3～4 節　**それから私は女預言者に近づいた。彼女は身ごもって男の子を産んだ。すると、主は私に言われた。「その名をマヘル・シャラル・ハシュ・バズと名づけよ。それは、この子が『お父さん。お母さん』と呼ぶことを知る前に、ダマスコの財宝とサマリアの分捕り物が、アッシリアの王の前に持ち去られて行くからである。」**

- ダマスコの財宝とサマリアの分捕り物・・・アッシリア軍が、アラムと北イスラエルを攻めて、財宝を分捕る
- マヘル・シャラル・ハシュ・バズ・・・「分捕り物はすばやく、獲物はさっと（持ち去られる）」という意味の名
- この預言の翌年（紀元前 734 年）、アッシリアは北イスラエルの 8 地域を占領（Ⅱ列 15：29）、さらにその 2 年後、アラムの首都ダマスコを占領（Ⅱ列 16：9）

2.　そのあと、南王国ユダも攻撃されるであろう（8：5～8）

5～6 節　**主はさらに、続けて私に言われた。「この民は、ゆるやかに流れるシロアハの水を拒み、レツィンとレマルヤの子を喜んでいる。**

- この民・・・南ユダ王国のアハズ王と彼に従う大多数の人々
- ゆるやかに流れるシロアハの水・・・エルサレムの水源ギホンの泉から流れ出てキデロンの谷を流れていく、ゆるやかな水流
- レツィンとレマルヤの子を喜んでいる・・・アラムと北イスラエルのことで喜んでいる＝この二つの国がアッシリアに攻撃されたことを喜んでいる
- 南王国ユダのアハズ王と彼に従う大多数の人々は、エルサレムに臨在される神、主を軽んじ、アッシリアを頼りにした。

7～8 節　それゆえ、見よ。主は、強く水の豊かなあの大河の水、アッシリアの王とそのすべての栄光を彼らの上にあふれさせる。それはすべての運河にあふれ、すべての堤を越え、ユダに勢いよく流れ込み、あふれみなぎって首にまで達する。その広げた翼は、インマヌエルよ、あなたの地をおおい尽くす。」

- エルサレムに臨在される主を軽んじ、アッシリアを頼りにしたことに対する裁きが、主から南王国ユダに下る。インマヌエルの地であるユダに、アッシリア軍がおおいかぶさる。
- あふれみなぎって首にまで達する・・・首＝エルサレムはかろうじて残る
- 預言成就：この預言から 32～33 年後にかけて、王は、アハズ王の次、ヒゼキヤ王のとき（Ⅱ列 18：13～37、イザヤ 36 章）

3. インマヌエルについての預言①　「しかし、インマヌエルのゆえに南王国ユダのダビデの家は守られる」（8：9～10）

9～10 節　諸国の民よ、打ち砕かれよ。遠く離れたすべての国々よ、耳を傾けよ。
腰に帯をして、わななけ。腰に帯をして、わななけ。
はかりごとをめぐらせ。しかしそれは破られる。
事を諮(はか)れ。しかしそれは成らない。
神が私たちとともにおられるからだ。

- 諸国の民よ・・・アラムやアッシリア。南王国ユダへの攻撃は、アラムもアッシリアも失敗する。
  - アラムの首都ダマスコがアッシリアに占領されるのは、紀元前 732 年。神はアッシリアを用いてアラムの計画を砕いた。
  - それから約 30 年後、紀元前 702/701 年頃、南王国ユダのエルサレムを囲んだアッシリア軍 18 万 5 千人は、主の使い（第二位格の神）によって壊滅した（Ⅱ列 19 章、イザヤ 37 章）
- 神が私たちとともにおられる　からだ　→　インマヌエル　のゆえに

4. インマヌエルについての預言②「インマヌエルは、つまずきの石、妨げの岩となる」（8：11～15）

11～15 節　**まことに、主は強い御手をもって私を捕らえ、この民の道に歩まないよう、私を戒めてこう言われた。**
「あなたがたは、この民が謀反と呼ぶことを何一つ謀反と呼ぶな。この民が恐れるものを恐れてはならない。おびえてはならない。万軍の主、主を聖なる者とせよ。主こそ、あなたがたの恐れ、主こそあなたがたのおののき。そうすれば、主が聖所となる。しかし、イスラエルの二つの家にとっては妨げの石、つまずきの岩となり、エルサレムの住民には罠となり、落とし穴となる。多くの者がそれにつまずき、倒れて打ち砕かれ、罠にかかって捕らえられる。

- この民＝南王国ユダのアハズ王と彼に従う大多数の人々。
- あなたがた＝イザヤを含む南ユダ王国の人々
- 謀反・・・アハズ王の方針【アッシリアと組む】に反対する言動。イザヤの預言は、アハズ王たちには謀反と見なされた
- この民が恐れるもの・・・アラムと北イスラエルの連合軍
- イスラエルの二つの家、エルサレムの住民・・・イスラエルの二つの家とは北イスラエルと南ユダ、イスラエル十二部族全体を指す。エルサレムの住民とは、ユダ族の王家だけでなく、各部族長や大祭司などが首都エルサレムに住んでいるので、指導者層を指す。イスラエル十二部族全体が再び一つの民となるのは、バビロン捕囚からの帰還後である。
- 預言の成就：ルカ 2：34、マタ 21：44、ロマ 9：31～33、Ⅰコリ 1：23、Ⅰペテ 2：5～8

5. イザヤ親子の名が示す神の働き・・・その焦点は、「イスラエルの残れる者【レムナント】（少数の真の信仰者たち）」に（8：16～18）

16～18 節　**この証しの書を束ねよ。このおしえをわたしの弟子たちのうちで封印せよ。」私は主を待ち望む。ヤコブの家から御顔を隠しておられる方を。私はこの方に望みを置く。見よ。私と、主が私に下さった子たちは、シオンの山に住む万軍の主からのイスラエルでのしるしとなり、また不思議となっている。**

- 29 ページのアウトラインを参照。イザヤの二人の子の名は第六部の C と D に、イザヤ自身の名は第六部の E に関係する。そのメッセージの焦点は、イスラエルの残れる者【レムナント】、少数の真の信仰者たち、に当てられている。長男の名は、「シェアル・ヤシュブ＝残りの者が帰って来る」

6.　律法に従い、預言者の証しに聴け（8：19～22）

19～22 節　**人々があなたがたに「霊媒や、ささやき、うめく口寄せに尋ねよ」と言っても、民は自分の神に尋ねるべきではないのか。生きている者のために、死人に尋ねなければならないのか。ただ、みおしえと証しに尋ねなければならない。もし、このことばにしたがって語らないなら、その人に夜明けはない。その人は迫害され、飢えて国を歩き回り、飢えて怒りに身を委ねる。顔を上に向け、自分の王と神を呪う。彼が地を見ると、見よ、苦難と暗闇、苦悩の闇、暗黒、追放された者。**

- 問題の中にあるときに、占いやまじないに頼ってはならない。その背後で人を操ろうとしているのは、悪霊である。問題がなくても、日常的に軽い気持ちで「運勢占い」に従うのは、危険な入口に立つことである。
- 霊媒の所に行って、死者の霊を呼び出し、その声を聞こうとしてはならない。その死者の霊とは、悪霊が演じるものであり、霊媒は悪霊に仕えて闇の力で金銭を得ようとする者である。
- 私たちの生活を導く正しい権威は、神のことばにある。旧約時代のイスラエルの人々にとっては、モーセの律法と預言者の証しであった。新約時代の私たちにとっては、旧約聖書に記された永遠の原則と新約聖書に記されたメシアの律法である。
- 信者が神のことばに従わずに悪い道にはまり込み、【そこから離れよう。神に立ち返ろう】としないなら、闇の中をさまようような生活になる。霊的救いを失うことはないが、信仰の後退、信仰の破船と呼ばれるような状態に陥る。時には心身の健康を失ったり、死に至ったりすることもある。悪い道にいると、まわりは不信仰な人、神の呪う人々ばかりである。助けを求めても誰も来ない。事態はますます悪くなる。

7.　インマヌエルについての預言③　ガリラヤ地方は将来、栄光を受ける（9：1～3）

1～2 節　**しかし、苦しみのあったところに闇がなくなる。先にはゼブルンの地とナフタリの地は辱しめを受けたが、後には海沿いの道、ヨルダンの川向こう、異邦の民のガリラヤは栄誉を受ける。闇の中を歩んでいた民は、大きな光を見る。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が輝く。**

- 海沿いの道：メソポタミアからエジプトに至る国際通商路である「海沿いの道」が通っている。イスラエル領域内では、ガリラヤ湖の西側地域。この地域にナザレがある。
- ヨルダンの川向こう：ヨルダン川の東側。イエスの公生涯のときは、デカポリス地方とペレア地方と呼ばれる、異邦人領域。デカポリス地方には、ガリラヤ湖の東側地域も含まれる。
- 異邦の民のガリラヤ：ガリラヤ湖の北側地域。イスラエルの領域の北端に位置し、イエスの公生涯の時代には異邦人も多く住む。カペナウムがある。
- これら 3 つの地域に割り当て地を持つ部族は 6 つほどあるが、部族名が言及されているのは、ゼブルンとナフタリだけ。その理由は、メシアと特に深い関係にある二つの町があるから。
  - ゼブルンの地：メシアが少年時代を過ごすナザレがある
  - ナフタリの地：メシアが公生涯で宣教拠点とするカペナウムがある
- 先には辱しめを受けたが、後には栄誉を受ける・・・北王国イスラエルはやがてアッシリアに滅ぼされる。そのためガリラヤ地方は暗い時代を経るが、将来、栄光を受ける。「大きな光を見る」とは、神の栄光を宿したお方、インマヌエルなるお方がガリラヤ地方に現れる、という預言。
- 預言の成就：マタイ 4：12～16

3 節　**あなたはその国民（くにたみ）を増やし、その喜びを増し加えられる。彼らは、刈り入れ時に喜ぶように、分捕り物を分けるときに楽しむように、あなたの御前で喜ぶ。**

- その国民：イスラエルの民
- 刈り入れ時に喜ぶ：収穫を喜ぶ祭り、秋の仮庵の祭り（申 16：15）は、メシア王国の到来を象徴する。詩 126：5～6「涙とともに種を蒔く者は　喜び叫びながら刈り取る。種入れを抱え　泣きながら出て行く者は　束を抱え　喜び叫びながら帰って来る」。これは、詩 126：1「主がシオンを復興してくださったとき」、すなわちメシアの王国が到来するときの喜びを指す。
- 分捕り物：イザヤ 53：2 では、メシア王国の支配権を「戦勝品」と表現している。

8.　インマヌエルについての預言④　**ガリラヤ地方が栄光を受ける理由**（9：4～7a）

理由その１

4 節　**あなたが、彼が負うくびきと肩の杖、彼を追い立てる者のむちを、ミディアンの日になされたように打ち砕かれるからだ。**

- 「彼」にくびきをかけて重荷を負わせる（貢物を提供させる）、彼の肩に杖を置く＝彼を服従させる、彼を鞭で追い立てる・・・これらのことをするのはアッシリア、そのアッシリアを「あなた」＝主が打ち砕く。
- ミディアンの日になされたように・・・士 7 章の出来事。北方の地域がミディアン人の圧迫を受けとき、「主の使い」（士 6：11）が現れ、ギデオンを用いて救った。
- アッシリアを打ち砕くという預言はすでに、預言①でなされている。よって、「彼」とは、預言①が成就するときの南王国ユダの王、ヒゼキヤである。

理由その２

5 節　**まことに、戦場で履いたすべての履き物、血にまみれた衣服は焼かれて、火の餌食となる。**

- 南王国ユダを攻撃してくるアッシリアの武器を、主がすべて破壊する

理由その３

6～7 節 a　**ひとりのみどりごが私たちのために生まれる。ひとりの男の子が私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は「不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君」と呼ばれる。**

その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座に就いて、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これを支える。今よりとこしえまで。

- インマヌエルなるお方、メシアがこの地上に立つ。
- 初回は「みどりご」、「ひとりの男の子」として。しかし、その４つの名は、メシアが神であり人であるお方、神性を持つお方であることを示す。
- 二回目は、王として。メシアはダビデの王座に就いて、その王国を治める。

9.　結びのことば　「**万軍の主の熱心がこれを成し遂げる**」（9：7b）